



平成26年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月6日

上場会社名 株式会社バイク王&カンパニー 上場取引所 東  
 コード番号 3377 URL <http://www.8190.co.jp/company/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川秋彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 山縣 俊 (TEL) 03-6803-8855  
 四半期報告書提出予定日 平成26年10月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年11月期第3四半期の業績(平成25年12月1日～平成26年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年11月期第3四半期	14,360	△3.2	73	△51.7	186	△30.1	82	△37.4
25年11月期第3四半期	14,840	△5.2	152	-	267	124.1	132	53.6
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年11月期第3四半期	5.99		5.99					
25年11月期第3四半期	9.58		-					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年11月期第3四半期	5,754	4,079	70.7
25年11月期	5,789	4,134	71.3

(参考) 自己資本 26年11月期第3四半期 4,070百万円 25年11月期 4,124百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年11月期	-	500.00	-	5.00	-
26年11月期	-	5.00	-	-	-
26年11月期(予想)	-	-	-	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株を100株に分割しております。

3. 平成26年11月期の業績予想(平成25年12月1日～平成26年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,474	△3.4	191	58.7	326	20.8	177	88.0	12.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年11月期3Q	15,290,600株	25年11月期	15,287,600株
26年11月期3Q	1,500,000株	25年11月期	1,500,000株
26年11月期3Q	13,790,261株	25年11月期3Q	13,785,600株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P. 3「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- (2) 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。そのため1株当たり四半期純利益および発行済株式数については、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(セグメント情報等)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8
4. 補足情報	8
(1) 生産、受注及び販売の状況	8
(2) 設備投資、減価償却、研究開発費の推移	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国経済は、政府の経済政策等の効果や個人消費の持ち直し等により緩やかな回復傾向にありますが、消費税増税にともなう駆け込み需要の反動の長期化や、海外景気の下振れによる国内景気への影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するバイク業界におきましては、国内におけるバイクの新車販売台数は約42万台(平成25年実績、出所:日本自動車工業会)となっており、前年よりも約4%増加しております。バイク保有台数は1,182万台(平成25年3月末現在、出所:日本自動車工業会)となっており全体として微減傾向にありますが、比較的市場価値の高い原付二種以上のバイクの保有台数は僅かながら増加しております。また、当社の主たる販売先(出品先)である中古バイクオークション市場の相場は、前年同期をやや上回って推移しております。

このような市場環境のもとで、当社は、「バイク王」を展開するバイク買取事業において、高収益車両の買い取り増加に向けた取り組みを中心に積極的な営業活動を行いました。販売台数は前年同期を下回る結果となりました。

また、平均売上単価(一台当たりの売上高)は前年同期並み、平均粗利額(一台当たりの粗利額)は前年同期をやや下回って推移いたしました。

一方、「バイク王ダイレクトSHOP」を展開するバイク小売事業において、販売台数、平均粗利額は前年同期を下回り、平均売上単価は前年同期をやや下回って推移いたしました。

このような中、前年に引き続き全社での経費見直しを推進し、販売費及び一般管理費の抑制に取り組むことで、利益の確保に努めました。

以上の結果、売上高14,360,909千円(前年同期比3.2%減)、営業利益73,847千円(前年同期比51.7%減)、経常利益186,723千円(前年同期比30.1%減)、四半期純利益82,616千円(前年同期比37.4%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### <バイク買取事業>

バイク買取事業に関しては、上記のとおりです。

以上の結果、直営店舗数は64店舗、セグメント間取引消去前の売上高は12,087,312千円(前年同期比4.0%減)、経常利益は152,771千円(前年同期比1,157.0%増)となりました。

#### <バイク小売事業>

バイク小売事業に関しては、下取り車両買取等を促進することで商品仕入れの強化を図るとともに、WEBからのお問い合わせへの対応を強化することで既存店舗の収益力強化を図りました。

以上の結果、直営店舗数は11店舗、セグメント間取引消去前の売上高は3,628,606千円(前年同期比9.8%減)、経常利益は30,982千円(前年同期比86.2%減)となりました。

#### <駐車場事業>

駐車場事業に関しては、引き続き既存事業地の収益力向上と採算性を重視した事業地開発を推進いたしました。

以上の結果、セグメント間取引消去前の売上高は600,730千円(前年同期比4.9%増)、経常利益は2,968千円(前年同期比90.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて66,276千円増加し、4,012,943千円となりました。これは主に、商品が78,917千円増加し、繰延税金資産等の減少により其他資産が24,618千円減少したためであります。固定資産は、前事業年度末に比べて101,335千円減少し、1,741,303千円となりました。これは主に、敷金及び保証金等の減少により投資その他の資産が125,789千円減少したためであります。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて8,131千円増加し、1,374,393千円となりました。これは主に、賞与引当金が64,614千円増加し、未払法人税等が53,100千円減少したためであります。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて54,713千円減少し、4,079,369千円となりました。これは主に、利益剰余金が55,274千円減少(株主配当137,891千円、四半期純利益82,616千円)したためであります。

この結果、自己資本比率は70.7%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成26年1月10日に公表いたしました決算短信に記載の業績予想から変更ありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年11月30日)	当第3四半期会計期間 (平成26年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,120,660	2,126,812
売掛金	252,286	257,176
商品	1,208,573	1,287,491
貯蔵品	15,486	15,550
その他	350,947	326,328
貸倒引当金	△1,286	△416
流動資産合計	3,946,666	4,012,943
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	573,036	593,191
その他（純額）	264,196	267,043
有形固定資産合計	837,233	860,235
無形固定資産	64,489	65,941
投資その他の資産	940,916	815,126
固定資産合計	1,842,639	1,741,303
資産合計	5,789,306	5,754,247
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	154,491	184,790
短期借入金	140,000	140,000
未払金	527,315	491,032
未払法人税等	59,800	6,700
賞与引当金	—	64,614
その他の引当金	5,383	20,541
資産除去債務	31,803	—
その他	447,468	466,715
流動負債合計	1,366,262	1,374,393
固定負債		
資産除去債務	219,629	220,128
その他	69,331	80,354
固定負債合計	288,961	300,483
負債合計	1,655,223	1,674,877

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年11月30日)	当第3四半期会計期間 (平成26年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	585,957	586,417
資本剰余金	605,579	606,040
利益剰余金	3,329,272	3,273,997
自己株式	△395,810	△395,810
株主資本合計	4,124,998	4,070,645
新株予約権	9,083	8,724
純資産合計	4,134,082	4,079,369
負債純資産合計	5,789,306	5,754,247

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年8月31日)
売上高	14,840,259	14,360,909
売上原価	6,595,565	6,951,098
売上総利益	8,244,694	7,409,811
販売費及び一般管理費	8,091,891	7,335,963
営業利益	152,802	73,847
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,279	1,321
クレジット手数料収入	47,910	42,087
助成金収入	23,922	26,645
その他	48,098	46,985
営業外収益合計	121,211	117,039
営業外費用		
支払利息	5,351	3,806
その他	1,541	356
営業外費用合計	6,893	4,163
経常利益	267,119	186,723
特別利益		
固定資産売却益	14	9
新株予約権戻入益	359	179
特別利益合計	374	189
特別損失		
固定資産除却損	1,725	1,992
固定資産売却損	245	—
減損損失	36,776	7,343
特別損失合計	38,748	9,336
税引前四半期純利益	228,746	177,576
法人税、住民税及び事業税	38,487	22,532
法人税等調整額	58,239	72,426
法人税等合計	96,727	94,959
四半期純利益	132,019	82,616



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間（自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	バイク 買取事業	バイク 小売事業	駐車場事業	合計	調整額	四半期 損益計算書 計上額(注)
売上高						
外部顧客への売上高	10,264,445	4,003,432	572,381	14,840,259	—	14,840,259
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,329,608	20,868	516	2,350,993	△2,350,993	—
計	12,594,053	4,024,300	572,897	17,191,252	△2,350,993	14,840,259
セグメント利益	12,153	225,157	29,808	267,119	—	267,119

(注) 報告セグメントのセグメント利益の合計金額は、四半期損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「バイク買取事業」セグメントおよび「駐車場事業」セグメントにおいて、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスとなっている、今後の改善が困難と見込まれる事業所等における事業用固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては、「バイク買取事業」セグメントで33,412千円、「駐車場事業」セグメントで3,364千円であります。

当第3四半期累計期間（自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	バイク 買取事業	バイク 小売事業	駐車場事業	合計	調整額	四半期 損益計算書 計上額(注)
売上高						
外部顧客への売上高	10,150,518	3,610,201	600,190	14,360,909	—	14,360,909
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,936,794	18,405	540	1,955,739	△1,955,739	—
計	12,087,312	3,628,606	600,730	16,316,649	△1,955,739	14,360,909
セグメント利益	152,771	30,982	2,968	186,723	—	186,723

(注) 報告セグメントのセグメント利益の合計金額は、四半期損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「バイク買取事業」セグメントおよび「駐車場事業」セグメントにおいて、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスとなっている、今後の改善が困難と見込まれる事業所等における事業用固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては、「バイク買取事業」セグメントで2,164千円、「駐車場事業」セグメントで5,179千円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

##### （1）生産、受注及び販売の状況

当第3四半期累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

（単位：千円）

セグメントの名称	前第3四半期累計期間 （自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日）	当第3四半期累計期間 （自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日）
バイク買取事業	10,264,445	10,150,518
バイク小売事業	4,003,432	3,610,201
駐車場事業	572,381	600,190
合計	14,840,259	14,360,909

（注）1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 当第3半期累計期間の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期累計期間 （自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日）		当第3四半期累計期間 （自 平成25年12月1日 至 平成26年8月31日）		関連するセグメント名
	金額（千円）	割合（%）	金額（千円）	割合（%）	
㈱ジャパンバイクオークション	6,512,231	43.9	7,260,461	50.6	バイク買取事業 バイク小売事業
㈱ビーディーエス	2,940,860	19.8	2,104,148	14.7	バイク買取事業 バイク小売事業

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### （2）設備投資、減価償却費、研究開発費の推移

主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期累計期間に著しい変動があったものは、次のとおりであります。

##### <移転・統合>

買取・小売・流通の機能を集約し、事業効率化を図ることを目的として、前事業年度に計画しておりましたバイク王福岡店、バイク王ダイレクトSHOP福岡店および福岡物流センターの統合拠点を、平成26年6月27日に開設いたしました。